

派遣交換留学

シンガポール国立大学への交換留学を通して

環境・社会理工学院 土木・環境工学専攻

土木工学コース 修士2年 花岡研究室所属

齋藤 悠里

内容

1. シンガポール国立大学(NUS)について
2. 留学をしようと思ったきっかけ
3. 留学中の勉強・研究
4. 暮らし
5. 留学を通して得たこと
 - 5-1. 留学前後の変化
 - 5-2. 留学先で学びたかった事に対する満足度
 - 5-3. 講義、実習などを通して、日本と大きく異なる点
 - 5-4. 勉強以外で日本では経験できなかった出来事
6. 今後の目標

1. シンガポール国立大学について(NUS)

シンガポール国立大学(National University of Singapore, NUS)は現在アジアトップの大学であり、毎年様々な国から多くの留学生がやってくる。その為、留学生の数は3割ほどであり、先生の出身国も様々である。留学生の為の寮の数は大変多く、学内も無料の学内バスが運行している。また、シンガポールという国を象徴するかののように、身の回りのものがすべて効率的に設計されているため、不便を感じる部分は何もないと思う。

2. 留学をしようと思ったきっかけ

学部3年時のデンマーク工科大学への交換留学を通し、様々な国の人々や文化を知り、専門知識を身に付けることができた。その点に関しては満足していたが、学部4年時のスリランカでの研究を通し、自分には東南アジアをはじめとする開発途上国の知識がないことに気が付いた。そこで、大学の交換留学の制度を利用して、東南アジアの人々、経済、文化などの知識を身に付ける第一の目標とする留学計画を立てた。留学先として、タイやインドネシアの大学も考えたが、より包括的に東南アジアの様々な知識を身に付けられるのはシンガポール国立大学の東南アジア専攻の授業を受け、多くの留学生と交流することであると考えたため、留学先をシンガポール国立大学に決めた。1学期分の交換留学をする予定だったので、最初から卒業を延長する予定はなかった。

3. 留学中の勉強・研究

2017年8月1日に日本を出発し、同年の12月19日に帰国した。研究は行わず、授業を履修することのみ行った。計4つの授業を受講した。(そのうち一つは聴講のみ)

➤ CE 5203 Traffic flow and control

ミクロなレベルでの交通システムについての勉強をした。大学院の授業であったため、他の授業に比べて授業内容は難しかったが、多くのことが学べたように感じた。

➤ SE4217 Southeast Asia in the Global Economy

東南アジア各国の経済を様々な側面から学んだ。自分でテーマを考え、論文を書く Research Paper は多くの参考文献を参照する必要がある、大変だった。

➤ SE3227 Maritime History and Culture of Southeast Asia

海洋考古学の授業で様々な財宝や難破船について学んだ。チュートリアルの授業では実際に美術館に行き様々な話を聞かせていただいた。

➤ TP5027 Transport and Freight Terminal Management

先生の都合で土曜に授業があることもあったので、履修はせず聴講のみしていた。自分の研究分野である港にチュートリアルで行けたのが良かった。

4. 暮らし

留学中は大学内にある学生寮に住んでおり、1人部屋に加え、4人でキッチンやシャワーを共有していました。ルームメイトはカナダ人、ドイツ人、フランス人だった。1週間の中期休みや Reading week を生かして、東南アジアの様々な場所へ旅行に行った。東南アジアをはじめとする様々なアジアの国を知ることは私の留学の大きな目的の一つであったので、実際に現地に行くことは旅行であっても良い経験だった。留学費用として、業務スーパードリームジャパンという財団から月 15 万円の奨学金を頂いていた。

5. 留学を通して得たこと

5-1. 留学前後の変化

留学前後で大きく変わった点は、東南アジアに関する知識量である。私はこの留学を通し、東南アジアの経済や文化を知ることがを第一の目標としており、それが達成できたことは非常に良い留学生活を送ることができたと感じる理由の一つである。東南アジア専攻の授業を2つ取ったことに加え、積極的に多くの国に足を運び、その国の人々の特徴や文化などを掴もうと意識したため、深く東南アジアを知ることができたと感じている。次に、海外生活を送ることに対する自信がついたことである。今回の留学前に、デンマークに1年留学していたため、海外生活を送ることに対する自信は普通の人よりもあったが、2回目の留学を無事に終えることができたおかげで、その自信を強くすることができた。また、シンガポールの生活水準は日本と変わらないが、一年中暑い気候は大きく異なる部分であったし、また他の東南アジアの国に行き、衛生面や環境面を学ぶことができたおかげで、将来そのような国々で働くことになっても大丈夫だ、という自信をつけることができた。

5-2. 留学先で学びたかった事に対する満足度

留学先では学びたいと感じていたことを比較的学ぶことができた。東南アジアに関する知識に関しては授業を通し、多くの事を学ぶことができたので満足している。また、シンガポールで働く日本人の方と交流機会や、同大学に留学している日本人学生、また同大学に在籍している日本人学生との交流を通し、多様な価値観を学ぶことができたのも大きな収穫

であった。一つ物足りなかったのは、想像以上に欧米の留学生が多かったこと、また外食文化と勉強に重きを置く大学であることが起因して、自国の学生とばかりつるむ留学生の割合が多く、また東南アジアからの留学生の割合が低かったため、異文化交流、とくに東南アジアの学生との交流が想像していたよりもできなかったことである。

5-3. 講義、実習などを通して、日本と大きく異なる点

まず、一つの講義の内容が非常に充実している。先生方が一つ一つの授業を大事にしており、授業内容や構成がしっかり考えられており、また先生自身もしっかり予習をしているように感じた。加えて、先生と生徒の距離が近く、先生が学生に歩み寄ってくれる点も日本の講義と大きく異なる点であると思う。

また、大学の中が非常にグローバルであるため、学生の見ている世界も自国のみならず全世界を見ていると感じた。日本はあまり海外の学生と交流する機会も多くなく、また日本で働く、ということのみ考える学生が大半だと思うが、働く場所は世界のどこでも良いと思えることは選択肢が多く増えるといった点においても、また様々な経験ができるという点においても良いことであると思う。

5-4. 勉強以外で日本では経験できなかった出来事

シンガポールで働く日本人、また同大学に留学/在籍していた日本人と交流できたことは日本の自分の大学にいたら経験できなかったことであると思う。またもちろん、普段の生活の中で非常にさまざまな時を他国の学生と共有できたことも貴重な経験であると思う。留学を通し一番はシンガポールという国について深く知ることができたが、普段の生活では会わないような人々と交流する機会は様々な価値観をすることができたという点でも、今後多くの生き方があるという点においても有意義な経験であったと思う。

6. 今後の目標

今回の留学を通し、海外で働くことに対する自信と東南アジアに関する様々な知識を身に着けることができた。将来は大学で学んできた土木の知識を生かすという点で、土木建築設計技術者として海外を舞台に活躍していきたいと考えている。